

## 地域と世界をつなぐ～七夕をもっと広めよう～

清水大格

(平成 15 年度 1 次隊 小学校教諭 ベトナム)

---

よろしくお祈いします。15年度1次隊の清水と申します。今平塚の松原小学校で小学校教員をやっています。今日の夜はベトナムの隊員の飲み会があるということで、これから行かれる方はぜひそんなすてきな出合いを大切にしてくださいと思います。

帰国してですね、協力隊時代に抱いた思いとか願いというのをどのように具体化していくかをそれなりに考えてやってきたつもりなんですけども、どうしても距離感というか学びの深まりというところで、こっちがベトナムのこと伝えたいとかこういう交流させたいというのが強すぎるとそれがうまい方向にいかないということで、どういう手だてであるのかなと思って、今年は地域素材というのを切り口にして国際化で広げてみたんですね。ちょっとみて頂ければと思います。

七夕祭りという平塚のお祭りをやったんですけど、ちょっと地元の方で評判になりましたですね、6月にケーブルテレビ局がきてですね、総合的な学習の時間に常に張り付いてカメラまわして編集してそれを番組してくれるっていうのがあったんです。いろいろあるんですけどこれが一番活動を紹介するのにまとまっているかなと思いますので、その映像を今からながらせて頂きたいと思います。

(映像のナレーション) 続いて特集です。平塚市立松原小学校の4年生が、総合学習の一環として七夕祭りを盛り上げようとこんな取り組みをしました。ご覧ください。

皆さんご存知のインターネットの YOUTUBE、ある日このサイトから世界に向けて七夕の願い事を書いた短冊の募集が行われ始めました。これは平塚市立松原小学校の4年1組の子供たちが展開したものです。4年1組は今年、湘南平塚七夕祭りが50回を迎えることを機に、最近小さくなったと感じる七夕祭りを盛り上げようと考えました。そこで総合学習の時間を中心に話し合いをしました。その中で出てきたのが、世界から願い事の短冊を集めるということ、そして七夕祭りの名物といえる商品の販売でした。そこでグループを作り、短冊、商品企画、PRの3つの班にわけつつ全員でそれぞれに取り組みました。YOUTUBEで呼びかけた短冊は12カ国から届けられたほか、自分たちの足で集めた短冊の中には、子供たちが自らお願いをして湘南ヴェルマーレの選手たちから集めた物もありました。担任の清水先生は子供たち主体で行おうと決めたものの、予想以上の子供たちの行動力に驚いたと言います。先生方や周囲の大人が応援したくなるほど、子供たちは本気なのです。七夕祭りまで2週間ほどであるこの日、午後には紅谷町の広場で飾り付けを行いました。実際に竹飾りとなって掲げられた短冊を見つめる子供たちの笑顔は町の人々に

もうれしく映ります。全面協力いただいたのが地元の

弘栄堂の三富さんです。こどもたちが考えた、たなばた一焼き。何度も改良が重ねられ、この日は最終段階とっていい試食会でした。ベースとなっているのはバタークリーム、その中にレーズンが入っています。これを七夕期間中3日間で実際に販売するのですから真剣です。さっそく子供たちは気づいた事をメモしそれぞれ意見を言う事にしました。

感心し、決定を持ち越し期日ギリギリまで話し合う事にしました。さて子供たちの七夕焼きはどんな形になって七夕祭りに登場されるのでしょうか。そんな松原小学校4年1組からテレビの前の皆さんにお知らせです。

このお話をさせて頂きますと、地域と世界をつなぐ授業を目指したということで、先ほどの距離感というのを埋めるには地域というのを切り口にするのがいいんじゃないかと、そういう仮説でやったということです。あと思いの部分というのは資料でお配りしている内容をご覧いただいた方がいいのかなと思います。

今からお話するのは単元のざっとした流れですね。授業実践例ということで、1番最初は4月9日の校内全体研究でやらせて頂きました。なぜ4月9日の第1週にやるのかというと、もうそのゴテゴテと模造紙とか画用紙とかを張り飾って普段してない研究授業をやめにしませんかという意味です。まだ完成していない段階、チョーク一本でやっていく、これからクラスで作っていくんだよ、という段階の授業をお互いにやっていく、そこから子供の姿をみとっていき学びをしていこうと、そういう声かけで最初私がやらせて頂いたということです。

で平塚といえなんですかということをお子に聞きました。最初に書かせてあとは班で話し合わせて3つにしばらせて、1番多いものの未来を予想するという流れでやったんですけど、相模湾とかあとは幼稚園とか保育園とか何々幼稚園とか自分の出身のところですね、そういうところがあがったんですけど、1番多かったのが七夕祭りだったんですね。

じゃあ30年後の七夕は良くなっているのですか、悪くなっているのですかという投げかけをしました。でそのとき書いた子供の感想なんですけど、右の子はですね、ダメになると、悪くなるという予想をしているんです。でも悪くなると答えたからといって別になくればいいとは思ってない、という思いがあるんですね。で、ほとんどがこの左のこのようにやはりどんどん良くなっていくと、こんな楽しいお祭りがなくなるはずがないとそういうことを主張する訳です。

そこで僕が揺さぶったのは来場者数が最盛期に比べて100万人減っているんですよ、去年は事件があつて、地元の商工会ではもう続けていくことが困難じゃないかと、掃除も大変だしやめたらどうかという実態があつたんですね、そういうことを言うわけですね。実はこういう背景があると、やめようという話もある、君らこれを放っておいていいのか、みたいな投げかけをしたら、やろうという風になっていったのが、まずご当地商品ですね。

ご当地グッズを作ろうということでそういう投げかけをしたら、家でまんじゅうとか作ってきたり、これを七夕で販売したらいいんじゃないかっていう子がいたっていうことですね。あといろんなレシピ、右の子は蒸しパンを考えたり左の子はどら焼きを串刺しにして販売したら、それ見たことないから面白いんじゃないかとみたいなことをいう訳です。

で最終的に弘栄堂さんっていう地域の和菓子屋さんがあるんですけど、地域の子が結構知り合いなもので、そこに僕たちこんなに頑張っているんだから弘栄堂さんも何かしてよっていう、ぞんざいな口の聞き方で直接交渉にいくとかそういうことがあったんですね。そしたら弘栄堂さん学校に来てくださって、じゃあ君たちの思いを聞こうということになってったんですけど、おっしゃっていたのは保健所の絡みがあって君たちがいくら試作したところで販売は出来ないんだと。ただ君たちの思いを受けておじさんが作ってやることは出来るということで、特産物を一緒に作ろうとなったということです。これは完全に地域ですね。で子供たちがこの中でですね、三富さんっていう方なんですけどこの弘栄堂さんにけっこう厳しいことをいう訳ですね。一番右の子はバターが少し多いとかくどいみたいなことを言うわけです。真ん中の子はこのお店はどら焼きがお得意だということで、どら焼きのちょっと改良したものを販売しようと言うことだったんですけど、あんこはやめた方がいいというどら焼きを根底から覆すようなことを言うわけですね。で三富さんはそれでも最終的にあんこをなくすという最終形をしてくれてですね、子供たちの意見を見事に取り入れて新製品を開発して下さったということです。この笑顔の姿はですね、子供が三富さんこれ最高です、うまいですっていうことを思わず伝えにいった姿なんです。で三富さんが笑うということがあった訳です。仲間と共同して学ぶということと地域の人と共同して学ぶということが、一つ総合学習の中でいわれてますけども、それが大事なのかなという事ですね。

あとここにスーツの方いますけども、このかたは市役所の方で商業観光課の方ですね、でこのどら焼きを作ることになったんですけども、販売する場所が無いという事に気づいてですね、市役所とどっか貸して下さいっていう交渉をプレゼンでやっているところです。最終的にはうまくいったんですけどヒヤヒヤでしたね。

共同で学ぶということが今出ましたけども、これ最初に担当の子供が作った包装紙なんですけど、子供たちからいろいろ意見が出て、これは白でシンプルだからとかあとこの七夕の文字をかえた方がいいとか聞いてかえた姿ですね。

あとこれ短冊の流れなんです、ここはちょっと国際を意識させたかったところです。板書はもう本当に雑なんですけど。この板書をきれいにするとかなんか掲示物をきれいにするというのは、この程度しかやってません。まあもうちょっとやれよという意見もありますけど。

で最初ですね、短冊を地域の人たちに配って参加を呼びかけたら盛り上がるんじゃないかって言う話があったわけですね。でそこは常に総合学習では国際を意識させたいと思っ

ていたので、君たちが生まれてきた地域というのは確かに大事だよと、でも地域の人って既に行っているんじゃない、参加しているんじゃないっていうことを投げかけた訳ですね。じゃあ平塚市全域に声かけようと。で小さいなあと、じゃあ神奈川県だ、じゃあ日本だという風になってきて、地球儀で見たら日本だってこんなもんだし神奈川県なんて見えもしないみたいな挑発をした訳ですね。じゃあ外国？外国行っちゃうっていうことをいうんですけど、じゃあ外国っていう事を引き出して、あとからアイデアを考えようということになっていって、インターネットっていうメディアの可能性が一つ出てきたんですね、それが YOUTUBE だったんですけどね。

YOUTUBE で訴えつつ、なおかつ青年海外協力隊の OB の連絡網も使ってちょっとお願いをしたんですね。で活動中の隊員ですとか、あと専門家の方とかいろいろな方が協力をしてくださって、結果的に 11 カ国から 2200 通の短冊が送られてきたということです。でその飾りを使ってですね、竹飾りというのを作ったんですけど、PTA さんと協力して 2 階 3 階ぐらいででかい竹に飾り付けをするんですね。そこで世界から送られてきた短冊を飾ったということです。

ただ当然地域も大事にしたいんですけど、これは地域に配りにいったところですね。お世話になった喫茶店ですね、最初ここで販売させてもらえるという話があったのでいいかなと思っていたんですけど、それが無理になっちゃって、セブンイレブンさんとかね幼稚園とかそういうところですね、いろいろな関わりも地域で生まれたということです。そして我らが湘南ヴェルマーレの方もですね、びっくりしたのはですね、持っていったら J1 で普通にやっている選手たちがみんな書いてくれて、なんか僕たちが J1 残れますようにということを書いてくれたんですね、ヴェルマーレすごいというので、本当 4 年 1 組大盛り上がりでした。

右がとても好きな写真なんですけど、このへんになると授業を超えて、完全に担当の子供たちが勝手に行って勝手に集めてきてという展開なんですけど、その中でもこうやって保育園の子供たちとのつながりが生まれているということですね、自分の出身の保育園ですけどね。

送られてきたのはですね、僕たち何にも知らなかったんですけど屋外に掲示をするんですね、ですから紙が送られてくると濡れちゃう訳ですよ。まずいどうするっていう話になってラミネートっていうのが学校にあるのでそれをやろうっていうことを、去年うちのクラスで下敷き作りをやった子たちが言い出して、それで作業してるところです、みんな。こんなデザインがいいんじゃないかっていうのをみんな考えて、廊下に出して検討しあったということです。

これはいよいよ提出しなきゃいけない前日のことなんですけど、子供たちが図書室から世界の人たちのことを調べてきて、それで服とかを書いてこれもラミネートして飾り付け

をするということをしていました。そしたらあるグループから国旗も飾ったらいいんじゃないということで、スイス公文学園さんの所とかが送ってきてくれたので、そのスイスの国旗とかをつくっているところですね。

この活動の中で、ベトナムの協力隊員がこの短冊募集というのを一つのきっかけにして七夕の授業をベトナムでやってくれたんですね。みんなで竹をとってきて、竹飾りをつくって、短冊も書いて日本に送ってきてくれたと。こっちはキルギスですね。教員養成系の大学なんですけど、やはり日本文化と一緒に学習するのと、一緒にこうやって書いてきてくれたということです。

で、協力隊の OB がですね、武蔵野大学という薬学系の大学で教員をされてたんですけど、その方がで国際協力サークルの顧問もされていたということで、こういう何か所か紹介して下さったということですね。いろいろなつながりが出来たということです。

子供の実際の学びなんですけど、左側を見ると私は短冊に世界中の人たちの願いが書かれていたので、大切に丁寧に飾ったと協力し合わなきゃ出来ないことだということと、協力をすれば何でも出来るんだということを右の子は書いている訳ですね。あと願いがあれば何でも出来るとか、感謝の気持ちでいっぱいですとか、これはとりもなおさず総合的な学習でいうところの自己の生き方を見つめる、生活に生かすという力の育成につながったんじゃないかなと思っています。

あと宣伝ですね。こういうことを宣伝ではしました。最初の良くなるか悪くなるかの予想なんですけど、テレビで宣伝したり新聞会社にお問い合わせしたらいいんじゃないかってことをこの子は最初からいっていて、その子を中心にして結実していったということです。みんなでチラシの検討をしているところですね。結構子供同士のアドバイスっていうのを聞いてですね、チラシで自分ではヘタだといってるけど、カッコ字の書き過ぎっていうのがあるんですね。で結構指摘されて、次書いてきたときに字の大きさ、大きく見やすくなるように変わってるんだということです。これは神奈川新聞さんに取り上げられたりとか、タウンニュースさんに取り上げられたということがありました。

これは当日の実際の様子です。短冊をお店で竹飾りに飾ったりとか、あと七夕焼きを売る会場にですね、世界の国旗を飾ってやったりとかそういうことがありましたね。

これは子供の意見なんですけど、「この活動をやって、普段役に立たないことでも役に立つことがあるんだなと思いました。イエーイ超いい気分」ということを書いてる子供がいたと。あと「僕は買ってくれた人に必ずありがとうございますと書いて心かけた。なぜ心かけたかという、感謝の気持ちを伝えるためだ」ということを言っていたと、あ

と大きな声を出すのが苦手な子なんですけども「このときは大きな声を出して宣伝をしたりして頑張りました。なぜそれが苦手かという私は発表するのが苦手だから」ということですね。自分なりの課題を持って生き方を考えて活動する姿だったかなと僕は評価をしました。

親御さんも結構前向きにとらえてくださっていて、「景品作りを夜遅くまでやっていた。ペンの色を使ったり、もらった人の気持ちを考えて作っていました。」「よくそういうことをお願いに行けたな」とこれは市役所の子供なんですけど、私はついていなくて子供たちが行きたい人行ってらっしゃいという、そういういい方をしたのでそういうことなんですけどもね。で「普段熱心さが足りないと思っていた私は、この子は静かに燃えていたんだと反省した」とかね。学校だけで完結するのが学びではない、では学び続けるために何が必要なんだろうというのは、やはり自ら学ぶ姿勢を待ち続けるための揺さぶり、平塚七夕祭りが無くなるかもしれないよって言う揺さぶりが効果的だったかなと思います。親御さんとの関わりが非常にある中で、やはり保護者の子供への期待と意を知ることがかなりできたというのが私自身も良かったかなと思います。何かそういえば私自身もこうやって進めていたか思い出し、自ら動けるようになっていたのかもしれない。これも親の一つの願いなのかなと思っています。

そのあとなんですけど、感謝の形ということで最初は七夕参加認定証を配るという話だったんですが、いつしか子供たちの間から感謝状というかたちで配ろうということで、ありがとうということを世界の11カ国に送ろうという話です。これは写真ですね、ちゃんと届きましたよっていう写真をくれたという事です。でこれ最近なんですけど、クリスマスパーティーに感謝になった人を呼ぼうということで、招待状を送ったんですね。そしたら本当に和菓子屋さんの三富さんとか、あとは市の方もいらして逆に君たちの頑張りありがとう、来年もぜひやってということと言われたということです。

ここで国際の授業をしてくださってるのは、スイスで協力してくださった協力隊 OB の方です。

それから、感謝状を受けて、私たちの短冊はどこに飾られてるのっていうことと、七夕はいったいなんですかっていう質問があったんです。それを冊子にして子供たちがまとめて送ったら、逆に手紙をまた書いて子供たちに送ってくれるというような、そんなつながりになっています。

特に二つの力の育成を目指したという事です。一つは共同しながら課題解決をしようとする自ら探求する力を育てようと、この探求させるために今回は揺さぶるということを意識したという事です。

もう一つは表現するということですね、そして行動するということです、これはおそらく生活に生かす力、自己の生き方を考えるということにつながっていくのかなと思っていますということですか。

先ほどのお話でひと、もの、ことという話があったんですけど、とくに人にこだわりたいなと思って教材開発をしました。ていうのもやはり都市部ではなかなか人というのは出てこないんですよね、物とか事はいくらでも子供から出てくるんですけど、平塚といえど何々さんとか松原小学校といえど誰それさんとかそういうのがなかなか出てこないのが一般的な都市部だし、それを教材の中で解決していくというのが一つ課題なのかなと思っています。私の課題もあったんですけどそれは資料に書いてある通りです。ご清聴ありがとうございました。

#### 【質疑応答】

質問：ベトナムに派遣されていたという事なんですが、ベトナムでの活動と今回の発表いただいた七夕の活動で、ベトナムでの活動がどういう風に今回の活動に生きたのかというところをお聞かせください。

先生：皆さんも言われていると思うんですが、結局、青年海外協力隊に僕が行って大きく変わったと思うのは、行動力であったり人とのつながる力だと思うんですけど、今になって地域の人とつながるといえるのは、それが生かされてるのかなと思います。協力隊の同期がこういう事をベトナムに赴任したときにいったんですね。地の民、風の民と言う二種類の民がいるとすると、で僕たち協力隊っていうのは2年で帰らなきゃ行けないとするならば風の民だと、そこに住む人たちというのは地の民だと。地の民と風の民が関わる事で何か新しい事が出来たらすてきな事だよねという事を言っていたんですけど、それは教員も一緒かなと思って、教員というのは異動というのが現実としてありますから、ずっとその地域で暮らしていく事というのは出来ないんですよね。そういうなかでクリスマスパーティーに市の方がいらしたとか、地元の和菓子屋さんが仕事があるのにそれをなげうってきてくれたというのは、やはり地域を大事にしていく学校を大事にしていくという思いなのかなと思うんです。だとすれば地域の地の民の方々と風の民である僕が関わることで、何か新しいものが作り出せてそれを提案できたらいいねという事を思っていたんですけど、その原点はベトナムかなと思っていたところです。

これから行かれる方は是非一緒に、また来年何か実践させて頂けたらと思いますのでよろしくお願いたします。